

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4070600333
法人名	社会福祉法人 さゆり会
事業所名	ゆたっとはうす
所在地 (電話番号)	長崎県五島市下崎山町716番地5 (電話) 0959(75)5605

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 1月 9日	評価確定日	平成 21年 1月 22日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 9 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.5

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		760 円	

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 59 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	虎島医院 近藤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五島の青い海と空を毎日眺めることができる絶好の立地にホームは建てられている。海からの朝日、風、雲、鳥、船など、今まで馴染まれてきた自然の恵みの中で、ご利用者は「ゆっくり・たのしく・笑顔で」というホームの基本理念通りの生活をされている。職員間の仲も良く、この2年間職員の離職は無い。地域の方々の利用も多く、知り合いの方々の中で馴染みの職員とともに安心した暮らしができています。母体法人の協力支援も大きく、研修体制・職員配置の支援など、大規模組織の強みを活かした取り組みが行われてきた。ご家族との関係も良好で、「夕食会」の時は、ご家族もお料理作りなどを手伝ってくださり、楽しいひとときを過ごしている。地域の民生委員の方々などの支援・助言も心強く、ホームが地域の一員としてどのような関わりを持っていくのか、一緒に検討していく機会が増えてきている。20年以降の更なる取り組みで、訪問看護師・PT・STなどの連携が強化され、健康面でもより安心した生活が送れるようになっている。日々ホームの中からは、大きな笑い声やご利用者の歌などが聞こえてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果を職員全員で話し合い「改善計画書」を作成した。具体的な取り組みの内容としては、①地域交流をホーム側から積極的に行ない、地域の夏祭りや保育園の餅つき等に参加するようになった。②運営推進会議の時に、ご利用者も参加するようになり、参加者との交流ができるようになった。③他の事業所との交流促進のため、近隣のホームを訪問し見学させていただく取り組みを行なった。④災害に備えた非常時の食料を確保できた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が評価の意義を説明した。職員に自己評価票を配布し各自で記入していただき、数日かけて職員で話し合いを行った。非常勤職員にも自己評価票を見てもらい意見を聞き、最後に施設長も目を通された。法人本部も含め、ホームの質の向上に向けた取り組みを行っている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご家族代表・五島市の担当者・民生委員代表等の参加のもと、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ホーム側が報告した最近の行事などの情報をもとに、参加者よりアドバイスや意見をいただいている。避難訓練に関する事、地域の外出先に関する情報、具体的なケア内容へのアドバイスなどもいただけ、とても有意義な会議となっている。外部評価の結果も報告している。昨年度より、ご利用者も会議に参加しており、会議の終了後、民生委員代表の方が中心になり、全員で童謡の合唱をしていただく場面もある。楽しく和やかな時間となっている。五島市の担当の方にも、日頃から適切なアドバイスをいただいている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族に、毎月、ホーム便りとケア実行表、金銭出納帳を送付している。2ヶ月に1回、夕食会の参加時や来訪時に、ホームでの暮らしぶりや健康状態等をお伝えしている。管理者や職員は、ご家族がいつでもお気持ちを言っていたらいいように、「何かあったら言ってくださいね」と伝え続けている。また、ホームに来訪しやすいよう、面会時は、職員やご利用者も笑顔で出迎え、職員の方からも積極的にご家族に話しかけるようにしている。いただいた意見は、職員全員で話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご利用者が生まれ育ってきた五島の地域での生活を大切にしている。地域の駅伝の応援やへトマト・チャンココ見学をしたり、季節の花々を見るためにドライブに出かけている。地元の中学生の訪問を受け入れ敬老会への参加も行い、地域の方々との交流できる場を作る等、ホーム側からの積極的な地域交流を心がけている。敷地内にあるデイサービスの行事などに参加し、地域の方々との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成12年の開設時に職員皆で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げた。“ゆたっとはうす”のホーム名の文字(ゆ・た)も活用し「ゆっくり・楽しく・笑顔で」の介護理念を掲げている。地域密着型サービスと言われる以前から、その地域の中での役割を考え「地域に貢献し家族と共に楽しめる時間を大切にします」という内容も掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	この2年間、職員の入れ替わりはなく、理念は十分に浸透している。毎朝、ホーム内に掲示している理念を見ながら申し送りをしている。月1回のケース会議や日々の現場においても、職員全員で理念についての話し合いや確認を行ない、気持ちを統一させている。20年夏頃から新たな取り組みとして、職員が日々気が付いた事は「気付きノート」に書いて共有するようになった。また、ホームが地域から孤立しないように、積極的に地域の行事に参加し交流を行なう取り組みも続けてきている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者が今までと変わらず地域の中で暮らしていけるように、地域の駅伝の応援などを行っている。走者に知り合いの方がおられる時は、その方の名前を書いた応援幕や旗なども作り、ホーム前の道路でご利用者は熱心に応援している。へトマト・チャンココにも参加しているが、チャンココはホームの中まで入ってきていただいている。中学生の訪問も受け入れ、敬老会にも参加している。近くに住宅が少なく地域住民との交流が難しいが、ホーム側からの積極的な地域交流を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、評価をすることで業務のマンネリ化を防ぎ、自己(ケア)を振り返る機会であると理解している。外部評価の日も緊張感を感じ、新たな気持ちを持ち前向きに取り組まれていた。前回の評価結果は職員全員で話し合い「改善計画書」を作成した。今回の自己評価は、先に自己評価票を職員に記入してもらい、常勤職員が数日かけて話し合いを行った。その後、非常勤職員に見てもらい意見を聞き検討を行った。最終的に施設長に確認してもらい評価を続けてきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回継続して開催している。ご利用者の状況報告、行事計画、実施状況の報告とともに、前回の会議で出された意見に基づいてホームが取り組んだ事を報告している。次回の議題に関する資料を予め配布するなど、出席者に積極的に参加してもらえるような働きかけをしている。参加者の方々からは、地域で外出に適した場所を教えていただいたり、ホームの運営やケアに関するアドバイスをいただくなど有意義な会議となっている。昨年からは、ご利用者も参加するようになり和やかな会議となっている。	○	とても読みやすい会議報告書を作成している。今後は更に、“議事録”と言う視点で、参加者のご意見に対しホーム側が答えた感想や対策案なども記録に残していかがであるか。欠席された方にも、意見交換の内容がリアルに伝えられる事にもなると思われる。今後の対策検討に活かせる記録になっていく事を期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、管理者が月1回“ゆたっとはうす通信”や“運営推進会議の報告書”を市の窓口へ持参し担当者へ渡し、担当課にて閲覧していただいている。「スプリンクラーに関する設置」などについて市の担当者に相談すると、親切に助言をいただいている。ざっくばらんにお話ができる関係を築けているが、更に、他のホームが、市とどのような関わりをされているかの情報収集も続けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には、ホーム便り(ゆたっとはうす通信)・ケアの実行表や出納帳を毎月1回郵送しているが、通信には、管理者がご利用者ごとに、手書きで暮らしぶりを追記している。2ヶ月に1回の夕食会の参加時や来訪時に、ホームでの生活状況や健康状態等を伝えている。面会の少ない遠方のご家族には、随時お電話でお伝えし、年1回訪問されるご家族には、訪問時にゆっくりお話しする時間を作っている。体調変化時には随時報告をするように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、ご家族がいつでもお気持ちを言っていただけるように、「何かあったら言ってくださいね」と伝え続けている。ホームに来訪しやすいように、面会時は職員やご利用者も笑顔で出迎え、職員の方からも積極的にご家族に話しかけるようにしている。夕食会の時には、一緒に料理をしてくださるご家族もおられ、気軽にホーム内で過ごせる雰囲気を作っている。運営推進会議の時などにいただいたご意見・要望は、運営に活かせるように職員全員で対応策を話し合っている。	○	今後もご家族に向き合い、もっと本音を言っていただける取り組みを続けていきたいと管理者は考えている。他のホームが行っていた「意見箱」の設置を検討している。ホーム側が積極的に“意見をいただきたい”という姿勢の表れにつながる事にもなり、今後の取り組みを期待していきたい。また、ご家族自身に、意見をあげやすい方法(アンケート等も含めて)を、直接、聞いて行かれるのも良いのではないであろうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年前から、職員の異動・離職はない。職員のレベルアップのための異動(常勤職員のみ)はあるが、なるべく馴染みの職員がケアを行なっていく事の大切さを運営者は理解している。離職防止のため、職員には仕事上の目標を持たせ、個々の評価ができるシステムを作っている。有給の有効利用ができる配慮もされており、職員同士の助け合い精神も強い。管理者がいつも笑顔で温かく、職員の話聴く姿勢があり、会議の場でも意見が言いやすい環境を自然と作ってきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(施設長)は職員の育成に力を注いでいる。職員ごとに毎年、“能力開発シート”を作らせており評価も行なっている。自分の課題を自己分析し、取り組み計画まで各自で作成していく能力を養う機会となっている。年に2回、管理者、施設長が更に面接し、課題・目標に対するアドバイスを続けている。ほぼ毎月、法人内で定期的に内部研修を行なっているが、研修の年間計画を作成しており、医師などの外部講師もお招きしている。外部研修にも参加させており、伝達研修も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は他事業所との交流を推進しており、管理者・職員は、3ヶ月に1回、グループホーム連絡協議会や介護支援専門員部会の研修に参加している。以前から、同地域のグループホームへ訪問しており、その月に、ホーム便りを作成した職員とご利用者も一緒に訪問し交流を続けている。昨年度から、更に、他のホームへの訪問を検討していたが、念願が叶い、複数の職員で相互訪問をすることができた。他ホームの取り組みを伺い、とても参考になっている。今後も続けていく予定にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染みながらサービスを利用いただけるよう、管理者が利用開始前に何度か自宅を訪問している。その後、ご本人にもホームを訪問してもらい、海を眺めながらお茶を飲み団欒する時間を大切にしている。馴染みの海を見ることができたり、以前から系列のデイサービスやショートステイを利用しているご利用者も多く、顔馴染みの関係ができていたり、スムーズに利用の開始ができています。管理者が以前在介センターで勤務していたという事から顔見知りのご利用者も多く、安心して入居されるご利用者も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	もともと農家だった方が多く、ご利用者から畑での野菜作り、鍬の使い方(腰の入れ方)、梅酒、らっきよの漬け方、仏壇に座る前の心得などや編み物、昔の歌などをご利用者に教えていただいている。言葉での会話が難しい方も、視線やジェスチャーで職員にアドバイスをしてくださっている。通院の時など、運転中の職員のために先に給をくださったり、常に“あいさつ”をしてくださるご利用者に、職員は支えていただいていると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長年、五島でどのように生活をしてこられたのか、ご本人やご家族に教えていただいている。そして、今後どのように暮らしていきたいのかを把握し続けている。入浴時や散歩の時・夜勤の時など、なるべくご利用者と1対1の時間を作り、思いや不安・ご希望などを開けるように職員は配慮している。言葉で意思を伝えられない方には、視線や表情・発声内容から、本当のお気持ちに近づけるよう取り組みを続けている。言葉で伝えられない気持ちを察する事ができるよう職員同士での話し合いもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者お1人ひとりの生活習慣、好み・心身状況・思い等を踏まえた『その人らしく暮らし続ける』ための介護計画となっており、個別・具体的な課題・目標となっている。ご利用者の意向を反映しながら『地域で暮らす』という視点とともに、個別の援助計画も盛り込まれたプランとなっている。ご本人・ご家族・職員の意見や気づきを計画に反映し、協力医療機関の医師・訪問看護師・PT・ST・担当していたケアマネ等にも相談・助言をいただきながら作成している。	○	ご本人主体の計画作りに取り組まれている。今後は更に、ご家族の役割や人生の中でご本人が大切にしている思いなどの把握にも努め、母としての思い、祖母としての思い、願いなども含めて、計画に反映できるようにしていかがであらうか。計画の中に、ご本人の役割、ご家族の役割が記載されていくことで、より話し合いの時にも、ご家族の積極的な参加につながっていくことが期待できる。今後の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	20年度の新たな取り組みとして、職員の日々の気付きを“気付きノート”に記録するようになった。ケアの標準化のためにも、朝の申し送りで報告し職員全員で共有できるようにした。全利用者について、月に1回は評価を行ない、計画の見直しの検討を続けている。ご利用者・ご家族・関係者と話し合いを持った時や状況の変化が生じた時は、それらを計画に反映させるために臨機応変な計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院の付き添い・お墓参り・自宅訪問等、ご利用者・ご家族の要望に可能な限り柔軟に対応している。「元気でいたい」と言うご利用者の希望を叶えるために医療連携体制の強化を行ない、訪問看護師やPTなどとの連携を図り、疾患の早期発見・早期治療ができています。また、健康の維持増進のため、同法人のデイサービスで行われているパワーリハビリを無料で利用できたり、ホームの一般浴槽の利用が難しいご利用者には、デイの機械浴を週2回利用するなど関連施設との連携もできています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように 支援している	ご利用者の希望を重視し、約半分の方は以前からのかかりつけ医に受療されている。かかりつけ医・協力医療機関の医師とはいつでも相談できる体制であり、同系列の特養の看護師が毎週ホームを訪問し相談できる体制もできています。必要時、医師は紹介状を書いてくださり、適切な医療が受けられている。職員が通院介助した場合、変化がなくても速やかにご家族に報告を行っているが、ご家族と一緒に同行される場合も多い。ご家族が通院介助をされた場合の受診結果も把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	終末期に対するご利用者・ご家族の意向を早目に把握している。ご希望に応じて、ホームで終末期のケアも行なわれた。隣にあるデイサービスの看護師に、毎朝、内線電話で健康状態の報告も行ない、必要時は迅速な支援をいただける体制も作っている。医師は往診もしていただき、重度化した場合も、ご家族や医師・職員・看護師・PT・ST等と話し合いをして最善の方法を検討している。必要時は入院して適切な医療を受けることができるが、入院せずホームで点滴などの医療処置を続けた方もおられる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを 損ねるような言葉かけや対応、 記録等の個人情報の取り扱いを していない	ご利用者の馴染みの呼ばれ方を把握して、それでお呼びするようにしている。入室時はノックなどをし、排泄介助時の声かけや介助は、ご利用者の自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく行っている。職員は、なるべく耳元で声かけをしているが、それを他のご利用者が見た場合に、どのような気持ちになるのかまで心配している職員もおられる。常に、ご利用者の心理に気を配り、職員の言動のあり方を考え続けている。全職員が個人情報保護法を理解し、情報が漏洩しない取り組みも続けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって 支援している	ホーム名の通り、「ゆたっとならぶ」過ごせるよう、お一人お一人のペースを大切にしながら日々を過ごされている。それぞれのご利用者には、個々の日課があり、なるべくその日課がご自身の自主性で行えるよう職員は見守っている。心身状況の変化で、廊下などの拭き掃除が行えなくなった方もおられるが、職員は、少しでもお一人お一人のお力が発揮できるよう、毎日の役割を担っていただけるような支援を続けている。入浴時間、食事のペースも個々に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に食べたいものを伺い、食材の買出し・調理の下ごしらえ・調理・味見・盛り付け・下膳等、できる範囲でご利用者も一緒に行なっている。調理方法のアドバイスもいただいているが、昼食は隣接している同法人のデイで調理してもらっている。昼食と夕食は職員も一緒に食卓につき、必要な介助を行いながら楽しい食事となるよう努めている。旬の食材を採り入れ、菜園で採れた野菜や摘みに行った山菜も使用し、郷土料理でもある五島山菜、五島チャーメンなども献立に採り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂の曜日や時間帯などは特に決めていないが、毎日入浴をしている方もおられる。ご利用者の好みに合わせて、入浴時間(体調に無理のない範囲で)や湯温等、個別の対応をしている。原則、1人ずつの入浴で、必要時は扉の外から様子を伺う等、羞恥心等への配慮も行っている。一般浴での入浴が困難な方には、隣接しているデイでの機械浴を週に2回利用し、それ以外は毎日清拭をしている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯などしており、楽しい入浴となる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活習慣の中で日々続けていた経典、日記、お墓参り、知人との交流、編み物、洗濯等の家事を継続していただいている。その日の体調に応じて、少しでも何かしらの役割ができるよう職員は支援を続けている。ご本人が得意なカラオケ、大好きな歌、ドライブ、新聞読み等、日々の生活の中での楽しみごとも持っていたいただいている。お一人お一人の好む会話(欄作りの話・畑の話等)にも心掛け、生活の中で主人公になれる場を意識して作るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地元の方が、隣接するデイサービスに來られる事が多く、職員は車椅子を押してデイサービスまでお連れしている。馴染みの行きつけの店、お寺、お墓参りへの外出支援をしていく中で、ご利用者の知人の方との交流もでき、散歩・ドライブ・買い物等日常的に外出ができるように心がけている。以前に比べて、体力が低下している方も増えてきているが、職員は、あきらめずに季節に応じた花々を見るために名所にお連れしたり、行事にも参加し、地域の中での楽しみができるよう外出支援を続けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間21:30から朝7:00までは防犯上施錠するが、日中は鍵をかけていない。日々、職員同士でご利用者の見守りを行い、必要に応じて1対1での対応が可能になるよう職員体制を整えている。現在、一人で外出される方はおられないが、併設の施設が経営している隣のお店の方や、デイサービスの職員の見守り体制があるとともに、必要時、ホームで飼っている犬が吠えて教えてくれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に総合警備設備会社に依頼し、消防署と連携して避難訓練を行っている。立地的に住宅地より離れた所にあるため、同法人の施設への協力を依頼し、民生委員の会長、駐在所への協力の働きかけも行っている。運営推進会議のテーマにあげ、災害対策について参加者から助言をいただいている。20年度、災害に備えて、水分・非常用の食料等、備品の準備も行なった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の嗜好調査を行ない好みも把握している。魚を他の食品に変えたり、マヨネーズ和えを酢和えに変えるなど個別に対応している。おやつ・飲み物も選べるようにしているが、カロリーの過不足や偏りを防ぐため、提供した食事の記録を定期的に同法人の栄養士等にチェックしてもらい助言をもらっている。定期的な体重測定・血液検査の結果に基づいた医師等からの助言も得て、必要な方にはデイにてパワーリハビリを行っている。食材の硬さ、調理・彩り、盛り付けの工夫もしている。	○	体調の変化で、嚥下状態が悪くなっているご利用者もおられ、STより指導をいただいて実践を続けている。今後もSTより、嚥下状態の維持向上のための体操や訓練に関する指導をいただき、なるべく毎食前、その体操などを実施していかれてはいかがであろうか。職員の方は、ご利用者が「自分でおいしく食べることを大切にしてもらえるため、今後も、“食べる力”の維持ができていくことを期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはスロープがあり車椅子での出入りが可能である。共有空間には8畳の和室があり、キッチン・リビング・廊下と一体化して、広々とした空間が作られている。窓からは海を見ることができ、お正月に初日の出を見ることもできる。和室には、仏壇、掛け軸や床の間、押入れがあり、家庭的な雰囲気ができている。廊下には数箇所ソファを置き、個々にくつろげる空間ができている。お風呂の脱衣所にも2畳の畳の間があり、そこに座って着替えができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口(玄関)には、木製の引き戸があり、木製の表札には黒字で縦書きに名前が書かれている。まるで昭和の時代を思い起こさせるような佇まいになっている。ご利用者やご家族と相談しながら、思い思いの馴染みの品物“ラジオ・テレビ・仏壇・写真・衣装箱等”を持ち込んでいただいている。また和室、洋室があり、ご本人の心身状況に応じて、居心地良く過ごせるような居室作りに取り組んでいる。		